

令和2年1月28日

# 南の風 329

南部地区ミニバスケットボール連盟  
会長 藤原 敬一

ご指導・ご支援をいただいた方の中で、忘れてはいけない方がいます。

日本で初めてプロのバスケットボールのコーチになられた『榎本 日出夫』先生です。榎本先生は日立戸塚レパード（私がご指導いただいた時は、日立戸塚オレンジギャルズという愛称だったと記憶しています）で、1976～1977年に日本リーグ女子とオールジャパン2連覇を果たしました。

戸塚区ミニバスケットボール連盟発足以来（1974年）、日立戸塚の体育館と健保会館体育館（併設されていた）を使用させていただき、ミニバスケットボールの大会を開催していました。その関係で榎本先生にはたいへんお世話になっていました。いつも我々ミニバスの指導者に穏やかに接して下さり、指導の在り方や練習法を紹介していただきました。

ご縁があって1983年に、私の初代の教え子（女子）が日本で初めての女性トレーナーとして、榎本先生の下でお世話になることになったのです。彼女は『希望寮』（選手寮）で選手と一緒に暮らし、選手の身体ケアやリハビリをおこなっていました。

そんな関係もあり、以前にも増して榎本先生とのつながりができたのです。1983年には榎本先生直々に、常盤台チームに対してクリニックをやってくださいました。しかも日立戸塚の選手も参加してくれたのです。感謝のしようがありませんでした。内容を紹介します。「小学生はボールに慣れることが一番だよ」と仰り、リズムドリブルの種類を何通りも紹介してくださいました。手のひらをやや丸めるようにして、5本の指でピアノを弾くようにするとよいと指示されました。ドリブルの高低の変化や横への揺さぶりなど、選手が師範してくれました。

シュートでは、「真っすぐに打つことと、アーチを掛けることが大切だよ」と選手に話し、竹竿を持ち出し「この竹竿の上から打ってごらん」と指示されました。リングのあちこちで竹竿を持った日立戸塚の選手が子どもたちに教える光景が広がりました。

他にも、「シュートを打たないのはバスケットボールじゃないよ」「ディフェンスは自分から仕掛けて相手に遅れないように足で付こう」と指導していただきました。夢のような時間でした。その時のメモは私の宝物となりました。

お陰様で1984年に県大会で優勝し、全国大会に出場することができたのです。

榎本先生や日立戸塚の選手の皆さんにお礼を兼ねて、会を開くことになりました。その折に私が「先生、連覇ができないのですが」（選手の頑張りで、1980年、1982年、1984年と隔年で全国大会に出場できました）と話すと、先生は黙って色紙に『精進は不精に通ず』と書いてくださいました。

私は努力がぜんぜん足りていない、自分への戒めだと悟りました。この『精進は不精に通ず』は私が指導を続ける上で、座右の銘になっています。

その後も先生にクリニックをお願いすると、快く「藤原先生、今度は何やろうか」と声をかけてくださり、我々指導者の要望や悩みに応えてくださいました。

現在、先生はバスケットボールクリニックを全国展開されています。